



第93期報告書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

アンリツ株式会社

www.anritsu.com/ir

93rd

Report





株主の皆様におかれましては、平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第93期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の事業の概況並びに決算の状況をご報告申し上げます。

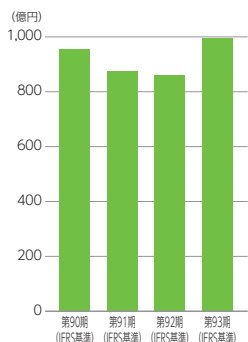
今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

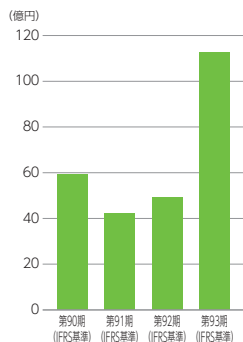
社長・グループCEO

濱田 宏 一

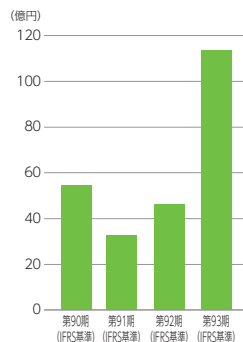
売上収益



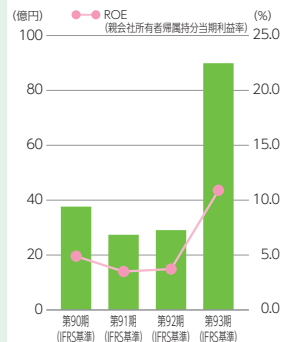
営業利益



税引前当期利益



当期利益・ROE



■ 当社グループを取り巻く事業環境

情報通信分野においては、モバイル・ブロードバンド・サービスは質量ともに拡がりを見せ、データ通信量は急速に増加して、ネットワーク・インフラを逼迫させつつあります。それらの課題を解決するために、モバイル通信方式4Gは、LTE(Long Term Evolution)及びLTE-AdvancedそしてLTE-Advanced Pro(Gigabit LTE)と進化し続けています。加えて、次世代の通信方式5Gの仕様策定が3GPPで進行しています。2017年12月に5G NSA-NR(Non-Standalone New Radio)、2018年6月に5G SA-NR(Standalone New Radio)の標準化が完了し、5Gの超高速通信に関する主要機能の全仕様が規定されました。3GPPでは引き続き、ユースケースの拡張が期待される超低遅延及び多数同時接続の仕様策定を検討しており、2020年初旬に標準化完了が予定されています。その結果、各国主要キャリアの5Gの商用化に向けたロードマップが具体化し、商用化スケジュールは順調に進展しています。2018年12月に北米や韓国でモバイル・ルーターを使用した先行的な5Gサービスが開始され、2019年4月からは5Gスマートフォンのサービスも開始されました。米国、アジアの主要端末ベンダーは、5Gスマートフォンサービスで使用される端末の開発を行い、MWC(Mobile World Congress)2019で相次いでリリースしました。

このような環境のもと、計測事業グループは、5Gの開

発投資需要を獲得するためのソリューションの開発と組織体制の整備に注力し、5Gチップセット及び端末の初期開発需要を獲得しました。

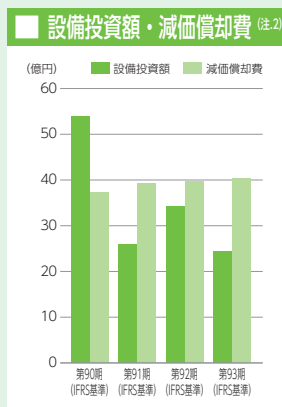
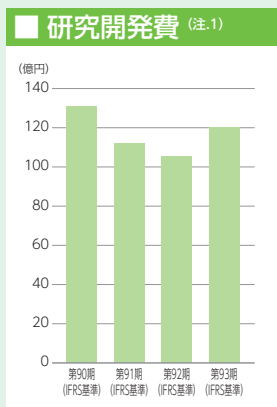
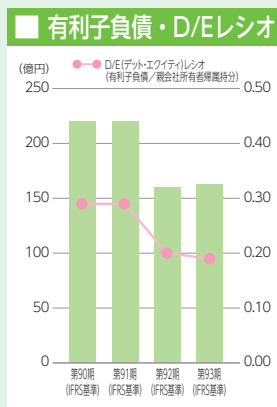
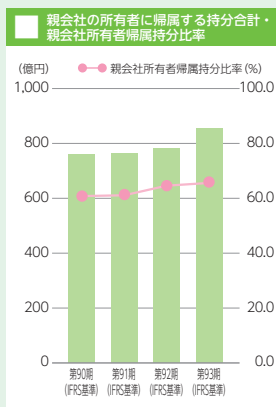
PQA事業の分野においては、加工食品生産ラインの自動化投資が進むとともに、X線を用いた異物検出並びに包装に関する品質保証などの需要が堅調に拡大しています。PQA事業グループは、このような状況下でX線を軸としたソリューションの競争力強化と海外の販売体制の整備拡充に取り組みました。

この結果、受注高は1,008億19百万円（前期比13.9%増）、売上収益は996億59百万円（前期比15.9%増）、営業利益は112億46百万円（前期比128.9%増）、税引前当期利益は113億62百万円（前期比146.9%増）、当期利益は89億91百万円（前期比210.2%増）、親会社の所有者に帰属する当期利益は89億56百万円（前期比210.9%増）となりました。

なお、法人税の不確実性に係る未払法人所得税の見直しを行ったことなどにより、米国子会社の法人所得税費用が約5億円減少しています。この結果、法人所得税費用は23億71百万円（前期比39.2%増）となりました。

■ 株主の皆様への配当

以上の結果、株主の皆様への配当につきましては1株につき、13円50銭とさせていただきます。



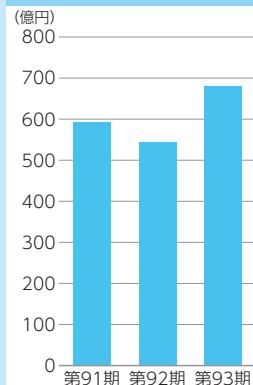
(注.1) 研究開発費は、一部資産化した開発費を含め研究開発費投資額を記載しております。

(注.2) 設備投資額は、期中に無形資産に計上した資産化開発費は含めておりません。減価償却費は、無形資産に計上している資産化開発費の償却額は含めておりません。

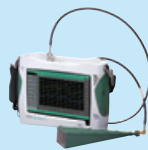
計測事業

- 売上収益 681億68百万円 (前期比 25.2%増)
- 営業利益 94億13百万円 (前期比338.3%増)

●売上収益の推移



5G端末開発用測定器

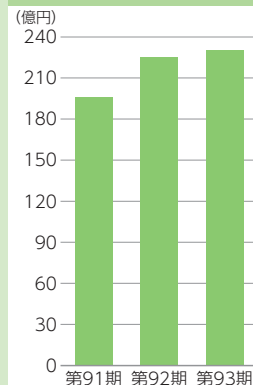


5Gネットワーク用測定器

PQA(プロダクツ・クオリティ・アシュアランス)事業

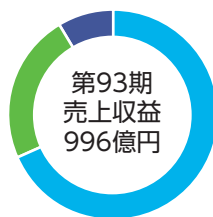
- 売上収益 230億74百万円 (前期比 2.3%増)
- 営業利益 16億9百万円 (前期比18.3%減)

●売上収益の推移



X線异物検出機

■事業部門別売上収益 (連結)



- 計測 68,168百万円 (68.4%)
- PQA 23,074百万円 (23.2%)
- その他 8,416百万円 (8.4%)

■地域別売上収益 (連結)



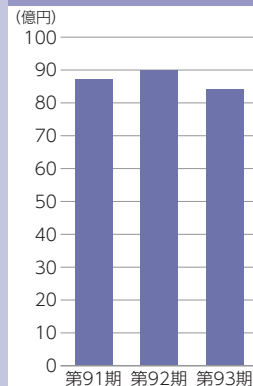
- 日本 32,183百万円 (32.3%)
- 米州 26,429百万円 (26.5%)
- EMEA 12,170百万円 (12.2%)
- アジア他 28,876百万円 (29.0%)

(EMEA：欧州・中近東・アフリカ)

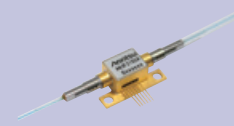
■その他の事業

- 売上収益 84億16百万円 (前期比 6.3%減)
- 営業利益 11億45百万円 (前期比21.5%減)

●売上収益の推移



帯域制御装置



半導体光増幅器

連結財政状態計算書

(第92期：2018年3月31日現在)
第93期：2019年3月31日現在

(単位：百万円)

| 科目 | 第92期 (前期) | 第93期 (当期) |
|--------------|----------------|----------------|
| 資産 | 121,190 | 130,467 |
| 流動資産 | 79,576 | 92,994 |
| 現金及び現金同等物 | 35,452 | 45,097 |
| 営業債権及びその他の債権 | 21,474 | 25,055 |
| その他の金融資産 | 1,164 | 537 |
| 棚卸資産 | 18,236 | 18,585 |
| 未収法人所得税 | 128 | 343 |
| その他の流動資産 | 3,120 | 3,375 |
| 非流動資産 | 41,613 | 37,473 |
| 有形固定資産 | 25,947 | 24,221 |
| のれん及び無形資産 | 3,993 | 3,586 |
| 投資不動産 | 1,463 | 830 |
| 営業債権及びその他の債権 | 326 | 305 |
| その他の金融資産 | 2,747 | 1,670 |
| 繰延税金資産 | 7,125 | 6,814 |
| その他の非流動資産 | 9 | 45 |
| 合 計 | 121,190 | 130,467 |

| 科目 | 第92期 (前期) | 第93期 (当期) |
|-------------------------|----------------|----------------|
| 負債 | 42,876 | 44,789 |
| 流動負債 | 26,803 | 30,251 |
| 営業債務及びその他の債務 | 7,998 | 7,599 |
| 社債及び借入金 | 4,467 | 5,270 |
| その他の金融負債 | 73 | 70 |
| 未払法人所得税 | 2,352 | 3,053 |
| 従業員給付 | 5,254 | 6,829 |
| 引当金 | 323 | 424 |
| その他の流動負債 | 6,333 | 7,003 |
| 非流動負債 | 16,073 | 14,538 |
| 営業債務及びその他の債務 | 500 | 435 |
| 社債及び借入金 | 11,477 | 10,978 |
| その他の金融負債 | 153 | 124 |
| 従業員給付 | 2,247 | 1,100 |
| 引当金 | 108 | 111 |
| 繰延税金負債 | 185 | 197 |
| その他の非流動負債 | 1,400 | 1,590 |
| 資本 | 78,313 | 85,678 |
| 親会社の所有者に帰属する持分合計 | 78,230 | 85,560 |
| 資本金 | 19,064 | 19,113 |
| 資本剰余金 | 28,137 | 28,207 |
| 利益剰余金 | 26,254 | 33,442 |
| 自己株式 | △ 987 | △ 1,133 |
| その他の資本の構成要素 | 5,761 | 5,930 |
| 非支配持分 | 83 | 117 |
| 合 計 | 121,190 | 130,467 |

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結財政状態計算書のポイント

■ 資産

主に現金及び現金同等物、並びに営業債権及びその他の債権が増加した一方、有形固定資産並びにその他の金融資産が減少し、資産合計は前期末から92億77百万円増加し、1,304億67百万円になりました。

■ 負債

主に従業員給付が増加した一方、営業債務及びその他の債務が減少し、負債合計は前期末に比べ19億12百万円増加し、447億89百万円となりました。

■ 資本

主に利益剰余金が増加したことにより、資本は前期末から73億64百万円増加し、856億78百万円となりました。

連結純損益及びその他の包括利益計算書

(第92期：2017年4月1日から2018年3月31日まで)
(第93期：2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科目 | 第92期 (前期) | 第93期 (当期) |
|----------------------------|--------------|--------------|
| 売上収益 | 85,967 | 99,659 |
| 売上原価 | 44,023 | 48,807 |
| 売上総利益 | 41,943 | 50,852 |
| その他の収益・費用 | | |
| 販売費及び一般管理費 | 26,563 | 27,944 |
| 研究開発費 | 10,156 | 11,715 |
| その他の収益 | 224 | 428 |
| その他の費用 | 535 | 374 |
| 営業利益 | 4,912 | 11,246 |
| 金融収益 | 332 | 387 |
| 金融費用 | 642 | 271 |
| 税引前当期利益 | 4,602 | 11,362 |
| 法人所得税費用 | 1,703 | 2,371 |
| 当期利益 | 2,898 | 8,991 |
| 純損益に振り替えられることのない項目 | | |
| その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融資産 | 181 | 69 |
| 確定給付制度の再測定 | 988 | 96 |
| 計 | 1,169 | 165 |
| 純損益に振り替えられる可能性のある項目 | | |
| 在外営業活動体の換算差額 | △213 | 225 |
| 計 | △213 | 225 |
| その他の包括利益合計 | 955 | 390 |
| 当期包括利益 | 3,854 | 9,381 |

| | | |
|-----------------------|-------|-------|
| 当期利益の帰属 | | |
| 親会社の所有者 | 2,880 | 8,956 |
| 非支配持分 | 18 | 34 |
| 当期包括利益の帰属 | | |
| 親会社の所有者 | 3,836 | 9,346 |
| 非支配持分 | 18 | 34 |
| 1株当たり当期利益(親会社の所有者に帰属) | | |
| 基本的1株当たり当期利益(円) | 20.97 | 65.20 |
| 希薄化後1株当たり当期利益(円) | 20.97 | 65.16 |

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結純損益及びその他の包括利益計算書のポイント

■ 売上収益

計測事業は5Gチップセット及び端末の初期開発需要が想定を上回って推移し、ネットワーク・インフラ市場においても米国の内需関連需要が堅調でした。また、PQA事業も国内・海外とも食品市場の品質保証プロセスの自動化、高度化を目的とした設備投資が堅調に推移し、全体として前期比15.9%増となりました。

■ 営業利益・当期利益

売上収益の大幅な増加により、営業利益は前期比128.9%増、当期利益は前期比210.2%増となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(第92期：2017年4月1日から2018年3月31日まで)
(第93期：2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科目 | 第92期 (前期) | 第93期 (当期) |
|------------------------|--------------|--------------|
| I 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前当期利益 | 4,602 | 11,362 |
| 減価償却費及び償却費 | 4,285 | 4,386 |
| 受取利息及び受取配当金 | △ 238 | △ 335 |
| 支払利息 | 128 | 103 |
| 固定資産除売却損益(△は益) | 9 | △ 241 |
| 営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加) | △ 11 | △ 3,395 |
| 棚卸資産の増減額(△は増加) | △ 1,973 | △ 64 |
| 営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少) | 882 | △ 452 |
| 従業員給付の増減額(△は減少) | 376 | 536 |
| その他 | △ 47 | 1,761 |
| 小計 | 8,014 | 13,661 |
| 利息の受取額 | 179 | 272 |
| 配当金の受取額 | 58 | 62 |
| 利息の支払額 | △ 109 | △ 98 |
| 法人所得税の支払額 | △ 484 | △ 1,960 |
| 法人所得税の還付額 | 287 | 309 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 7,946 | 12,247 |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △ 1,215 | △ 545 |
| 定期預金の払戻による収入 | 1,200 | 1,135 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △ 2,444 | △ 2,114 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 2 | 714 |
| その他の金融資産の取得による支出 | △ 2 | △ 3 |
| その他の金融資産の売却による収入 | 0 | 1,177 |
| その他 | △ 1,473 | △ 980 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 3,932 | △ 616 |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金純増減額(△は減少) | △ 100 | 300 |
| 社債の償還による支出 | △ 6,000 | - |
| 配当金の支払額 | △ 2,059 | △ 2,198 |
| その他 | △ 42 | △ 154 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 8,201 | △ 2,052 |
| IV 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 41 | 65 |
| V 現金及び現金同等物の増減額 | △ 4,229 | 9,644 |
| VI 現金及び現金同等物の期首残高 | 39,682 | 35,452 |
| VII 現金及び現金同等物の期末残高 | 35,452 | 45,097 |

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー
税引前当期利益並びに減価償却費及び償却費の計上により資金が増加した一方、営業債権及びその他の債権の増加により資金が減少したことにより、当期における営業活動の結果獲得した資金は純額で122億47百万円となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー
有形固定資産の取得により資金が減少した一方、その他の金融資産の売却により資金が増加し、当期における投資活動の結果使用した資金は、純額で6億16百万円となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー
配当金の支払(21億98百万円)により、当期における財務活動の結果使用した資金は、純額で2億52百万円となりました。

サステナビリティ推進活動

アンリツグループは、企業としての社会的責任を果たし、“持続可能な社会”への貢献を通じて企業価値を向上させていくため、「アンリツ サステナビリティ方針」を制定し、SDGsへの取り組みを推進しています。

特にSDGsのゴール9は、グループ全体で事業を通じて貢献できるテーマです。事業とESG重要テーマへの取り組みの両輪で、SDGsのゴール達成と持続可能な社会の構築に貢献することを目指しています。

サステナビリティ マネジメントシステム



SDGsとは

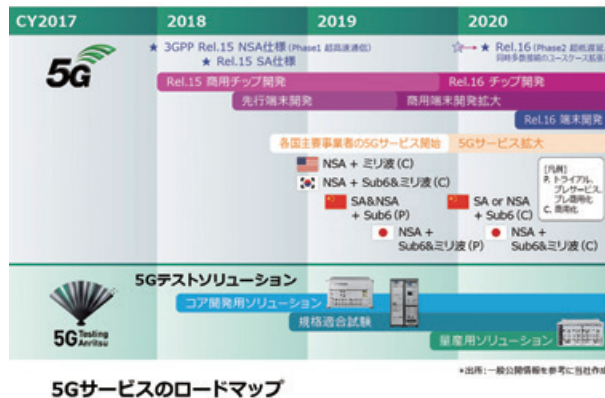
SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)は、2030年までに世界が解決すべき17のゴールとして、2015年の国連総会にて採択されました。17のゴールの下にはより具体的な169のターゲットが定められており、経済・社会・環境に関する世界の様々な社会課題と目標が集約されています。

“5G”、いよいよ離陸—加速するアンリツの5Gビジネス

これからの社会のインフラとなる5Gサービス。北米や韓国ではすでにサービスが開始されており、2019年に入り端末ベンダーから5Gスマートフォンの商品化が始まりました。アンリツはこの波を捉え、5Gの開発に貢献しています。

■5Gで変わる社会

5Gは、「超高速」、「超低遅延」、「多数同時接続」を特長とする移動通信サービスです。IoTや自動車、スマートホーム、医療、農業、工場、エンターテインメントなど、様々な分野で利活用され、安全・安心で豊かな社会のインフラとなることが期待されています。



■Mobile World Congress2019でトータルソリューションを展示

世界最大規模のモバイル展である「Mobile World Congress (MWC) 2019」が、2019年2月25日から28日まで、スペイン・バルセロナで開催されました。アンリツは、“Your 5G Partner”のメッセージを掲げて参加し、測定器メーカーでは唯一、チップセット、端末開発試験からコンフォーマンステスト、そして保守用の測定器まで展示しました。特に、お客様とコラボレーションしたMT8000Aによる5Gのライブデモは大きな注目を集めました。



■アンリツのソリューション

アンリツは5G用チップセットの技術検証から端末の性能評価、規格適合性試験・事業者受入試験、量産試験までカバーしたソリューションを提供しており、世界各国の通信事業者、チップセット・端末メーカーで採用されています。

5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション



好調 QUICCA—安全・安心な食の供給に貢献

アンリツインフィビスの品質管理ソリューションQUICCAの販売が好調です。
その背景とQUICCAが提供している価値をご紹介します。

食品・医薬品業界では、「生産の効率化」「人手不足に伴う省力化」「品質保証のトレーサビリティ」が課題となっています。これらの背景には、単位時間あたりの生産能力を上げることに加え、「不良品を作らない」「原料を過不足なく有効に使う」「原料節約」といった食品ロスに関する社会課題、また「人手不足のおり生産管理をできるだけ自動化したい」「お客さまからの『お問い合わせ』に備え、検査データをいつでも参照できるようにしたい」といったことが、強く求められていることにあります。これらの課題解決に貢献しているのが、QUICCAです。QUICCAはソフトウェア製品であり、重量選別機や異物検査機などからの検査情報を収集し、生産状況の見える化、生産分析、品質分析を行うことができ、お客様での評判が高まっています。



QUICCAの最新モデルは、国内最大規模の食品・包装業界向けの展示会であるFOOMAやTOKYO PACKに出展し、大きな注目を集めました。



会社の概要 (2019年3月31日現在)

商号 アンリツ株式会社
ANRITSU CORPORATION
本社 神奈川県厚木市恩名五丁目1番1号
(〒243-8555)
創立 1931年3月17日
資本金 191億円
従業員数 3,778名 (連結) 836名 (単独)

役員 (2019年6月26日現在)

| | | | | |
|---------------|------|----|---|----|
| 代表取締役 | 濱窪新島 | 田美 | 宏 | 一文 |
| 取締役 | 青 | 木 | 願 | 澄 |
| 取締役 (社外取締役) | 関 | 木 | 眞 | 史 |
| 取締役 (社外取締役) | 青 | 和 | 岳 | 哉 |
| 取締役 (監査等委員) | 五 | 十 | 孝 | 義 |
| (社外取締役) | 十 | 嵐 | 和 | 夫 |
| 取締役 (監査等委員) | 清 | 水 | 則 | 夫 |
| (社外取締役) | 谷 | 合 | 俊 | 子 |
| 取締役 (常勤監査等委員) | 谷 | 合 | 俊 | 澄 |

執行役員・理事 (2019年6月26日現在)

| | | | | |
|--------------|-------|----|---|----|
| 社長 (グループCEO) | ※濱窪新島 | 田美 | 宏 | 一文 |
| 専務執行役員 | ※濱窪新島 | 田美 | 願 | 澄 |
| 常務執行役員 | ※濱窪新島 | 本 | 眞 | 史 |
| 執行役員 | ※濱窪新島 | 永 | 岳 | 伸 |
| 執行役員 | 橋 | 内 | 康 | 徹 |
| 執行役員 | 脇 | 掛 | 一 | 郎 |
| 執行役員 | 武 | 田 | 博 | 幸 |
| 執行役員 | 藤 | 野 | 嘉 | 昇 |
| 執行役員 | 内 | 天 | 正 | 彦 |
| 執行役員 | 門 | 徳 | 嘉 | 努 |
| 執行役員 | 徳 | 家 | 正 | 努 |
| 常務理事 | 川 | 辺 | 哲 | 雄 |
| 常務理事 | 高 | 橋 | 幸 | 宏 |
| 常務理事 | 高 | 木 | 章 | 雄 |
| 常務理事 | 才 | フ・ | シ | 一 |
| 常務理事 | 野 | 田 | 華 | 子 |
| 常務理事 | 播 | 本 | 彰 | 大 |

(注) ※印を付した執行役員・理事は、取締役を兼務しております。

グローバルネットワーク



厚木
アンリツ株式会社 (本社)
(計測器等の開発、販売)



アンリツインフィニス株式会社
(重量選別機、異物検出機等の開発、製造、販売)

アンリツネットワークス株式会社
(情報通信機器の開発、販売、保守)

アンリツカスタマーサポート株式会社
(計測器の校正、修理、保守)

アンリツデバイス株式会社
(光デバイスの製造)

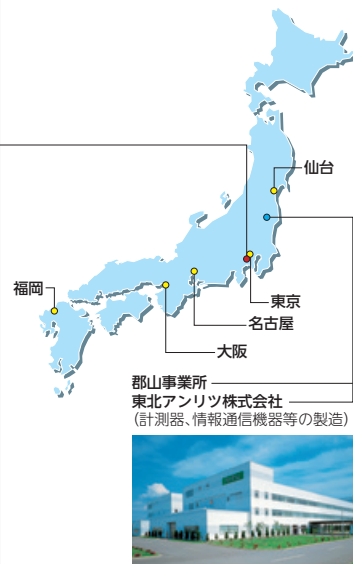
アンリツエンジニアリング株式会社
(ソフトウェアの開発)

アンリツ興産株式会社
(物流、厚生サービス、施設管理)

アンリツ不動産株式会社
(不動産の賃貸)

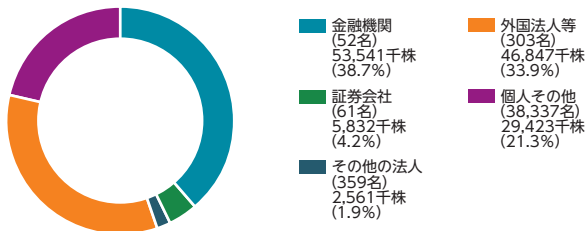
株式会社アンリツプロアソシエ
(シェアード・サービス・センター業務)

平塚
A T テクマック株式会社
(加工品、ユニット組立品の製造、販売)



株式の状況 (2019年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 / 400,000,000株
- 発行済株式総数 / 138,206,794株
- 株主数 / 39,112名
- 株式の所有者別状況

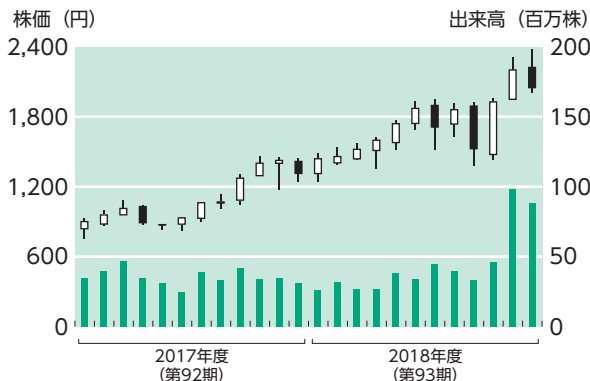


・大株主

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|--|---------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 20,574 | 14.96 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 11,463 | 8.33 |
| BBH FOR MATTHEWS ASIA DIVIDEND FUND | 8,806 | 6.40 |
| J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000 | 3,338 | 2.43 |
| SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT | 2,846 | 2.07 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5) | 2,528 | 1.84 |
| 住友生命保険相互会社 | 2,314 | 1.68 |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口) | 2,128 | 1.55 |
| JP MORGAN CHASE BANK 385151 | 2,094 | 1.52 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・三井住友信託退給口 | 2,000 | 1.45 |

(注) 持株比率は自己株式(646,335株)を控除して計算しております。

・株価・出来高の推移



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日
 - 定時株主総会 毎年3月31日
 - 期末配当金 毎年3月31日
 - 中間配当金 毎年9月30日
 - そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

■株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

■株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

■株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031
(インターネットホームページURL)
<https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

■特別口座について

株券電子化前に「[ふり]」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

- 公告の方法 当社ホームページに掲載します。
(URL) <https://www.anritsu.com/koukoku>

銀行口座等での配当金のお受取りについて (配当金を配当金領収証によりお受取りの株主様へ)

配当金を配当金領収証によりお受取りの株主様は、銀行口座等でのお受取りに変更することができます。銀行口座等への振込みは、お受取りの手間を省くことができ、安全・確実に配当金を受け取ることができます。配当金のお受取り方法の変更の詳細は、口座を開設されている証券会社(特別口座に記録されている株式については、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行)までお問い合わせください。

■単元未満株式の買取り及び買増しについて

単元未満株式(100株未満の株式)を保有されている株主様は、当社に対し、保有されている単元未満株式の買取請求をすることにより、売却することができます。また、当社に対し、保有されている単元未満株式と合わせて単元株式数となる数の株式の買増請求をすることにより単元株式とすることもできます。買取請求・買増請求をする場合は、口座を開設されている証券会社(特別口座に記録されている単元未満株式の買取請求・買増請求の場合は、三井住友信託銀行)にお問い合わせのうえ、お手続きください。